

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 25 年 7 月 12 日)

【三】子路曰く、衛の君子を待ちて政を為さば、子將に奚をか先にせんとすると。子曰く、必ずや名を正さんかと。子路曰く、是れ有るかな、子の迂なるや。奚ぞ其れ正さんと。子曰く、野なるかな由や。君子は其の知らざる所に於て、蓋し闕如す。名正しからざれば、則ち言順わず。言順わざれば、則ち事成らず。事成らざれば、則ち礼楽興らず。礼学興らざれば、則ち刑罰中らず。刑罰中らざれば、則ち民手足を措く所無し。故に君子は之に名づくること必ず言うべくし、之を言うこと必ず行いうべくす。君子は其の言に於て、苟もする所無きのみと。

孔子が 67 歳の時のようです。子路と孔子がじゃれ合っているような感覚です。子路が言うには、「衛の国に来て、皇帝から政治を司って貰いたいと言われる可能性があります、そう言われたら先生は何をしますか」と聞きました。孔子は「今は、世の中乱れ切っているから、まず、ものの考え方をすっきりさせなければいけない。理念をはっきりさせてからでないといけない」と答えました。そうすると子路は「名目を正そうというのは、遠回りで曖昧すぎます。今の世の中に受け入れられません」と子路が言ったところ、孔子は「だからお前は駄目なのだ。君子というものは、自分が知らないもの、または知っていても知らないような顔をしないではいけません。命分が正しくなければ話の筋が通らない。話の筋が通らなければ、政治というのは上手くいかないものだ。政治が正しく行わなければ文化はだいたい駄目になっていく。文化が駄目になっていけば、裁判は賄賂が横行して、民衆は裁判を信用しなくなる。裁判が正しく公平に行わなければ、国民は手足を伸ばしてのんびりすることが出来ないだろう。君主は何かを行う時には、必ず言葉がはっきり分らなければいけない」と答えました。

現代で置き換えますと、「アベノミクス」という言葉だけでは分からない。「アベノミクス」と発言したら必ず実行をしなければいけない。従って内閣総理大臣になった人間は、必ず発言をする時には、誰が聞いても分かるような言葉使いで発言をし、実行しなければならぬ。軽はずみに言うてはいけません。ぶら下がりて発言をして後始末に困るといふことはしてはいけません。よく考えてから、おやりなさいということです。

孔子と子路の漫才問答のようなものと感ずます。